

令和5年

12月

地域リハOT便り vol.15

地域リハビリテーション部では、地域に貢献に向け、行政や各種団体からの依頼（講師や委員など）に対応できるよう、各市町に担当部員を配置し、連絡、調整を行っています。

地域リハOT便りを通じて、地域で活躍する各市町の作業療法士の取り組みを紹介します。

今回は、多気町での取り組みについて、紹介します。

津市での取り組み（地域リハ部・津市担当：工藤元貴）

地域リハ部では、全国的な認知症当事者団体である「公益社団法人 認知症の人と家族の会」との連携を図り、以前よりともに活動しています。今回、認知症の人と家族の会三重県支部が津市にて、認知症ピアサポート活動支援事業という三重県からの委託事業を開催するにあたり、認知症の人へのサポートや会場運営、本人交流会の進行等の役割として、作業療法士（以下、OT）へ依頼があり、地域リハ部から3名が参加致しました。

今回の事業は、「認知症本人交流会・相談会～共に重ねる心のハーモニー」というテーマで、2部構成となっています。1部では、認知症当事者である丹野智文さんがモデルの映画「オレンジ・ランプ」の上映会でした。この映画は当事者視点でのお話で、本人の気持ちの大切さ、家族や仕事仲間などの周囲の関わり等を改めて考えることができる映画です。上映会には100名を超える方が来ていました。



2部は、認知症本人交流会・相談会「ひだまりおれんじ」というテーマで、認知症の当事者が集まり、互いに交流しながら、本人の声を発信する場となっています。OTは打合せから参加し、当事者のサポート方法や環境設定等を共有しました。始めにリフレッシュ体操を提供した後、交流会の進行をOTが担当しました。ただ、当事者同士の交流が目的であり、本人の思いの発信の場である為、OTが進行をしながらも、当事者に司会をしてもらおう等、発言しやすい環境づくりを工夫しました。実際に当事者からは、診断された時の思いや、家族との関係での悩み等を発信して下さいました。

「出来ることを奪わないでほしい」「認知症になって変わったのは周りから対応であり、自分は何も変わらない自分である」という本人の思いがありました。OTとして大切にすべき思いであり、残存機能を活かすことが得意なOTにとって重要な役割であると感じました。認知症の人を支援する側という立場で構えてしまう事が多いですが、認知症の本人の声を大切に、同じ立場で寄り添いながら、認知症の人とともに歩いていくことが大切であると改めて感じる事ができた機会でした。今後も認知症の人と家族の会と連携させていただき、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりへ関わっていきたいと思います。